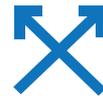


イキメン 研究所 ジャーナル



発行者：川崎市男女共同参画センター

発行月：令和3年10月



FREE!

イキメン研究所



家庭でも地域でもイキイキと過ごす
パパたちでつくる「イキメン研究所」



イキメンパパが振り返る、
初心者パパだったあの時

ママの話をきく

パパママコミュニケーションの肝は、ママの話をきくことにつきます。でも、それ本当にママがしてほしい「きいて」への対応になっているのでしょうか。セルフチェックしてみましょう。

【NG例】

- ・結論を急ぐ
- ・生返事(典型例 スマホを見ながら)
- ・軽く受け流す(典型例「考えすぎじゃない」「なんとかなるよ」)
- ・論破する(典型例「だから必要ないでしょ」)
- ・そもそも話をきく時間がとれない

連載

育児にも積極的にかかわりたいプレパパに贈る

「そのこのとこ、どうだった？」

テーマ： コロナ禍での出産

2021年1月、緊急事態宣言の中でDパパ家第二子出産となりました。コロナ禍という環境での出産について、平常時とだいぶ勝手が違いました。平常だった第一子のお産のときと比べて感じたこと、パパが気がつけた方がよいことをまとめてみました。



続きはWEBで⇒

肩車 重さで感じる 子の成長



このコーナーは、流行りの紙とウェブの連携企画。プレパパに(プレママにも)役立つ情報を発信しています。待ち合いの暇つぶし以上の質を保証！

詳しくは、すくらむ21
までお問合せください。

川崎市男女共同参画センター (すくらむ21)

電話：044-813-0808 FAX: 044-813-0864

すくらむ21

検索

<https://www.scrum21.or.jp/>

「男性の産休」制度に 思うこと



A パパの場合

より柔軟に取得できるようになることで、男性の育児休暇の取得の選択肢が広がると思います。夫婦で考え方が異なったり、出産・育児を経ることで考え方が変化することもあります。休み方をカスタマイズできることは男性の育児休暇取得の向上に有効だと思います。



C パパの場合

職場と社会の空気を変えていく原動力になっていくと思います。いつかは取得が義務化されたらいいですね。産後にいきなり産休に入ってもママと育児の仕方をすり合わせる余裕はありません。産前からママと作戦会議をひらいておくことで産休を有意義に使えらと思います。



B パパの場合

改正されることを知りませんでした。制度を利用してもらうためにはまず知ってもらうことが必要ですよ。産休が取りやすくなることも大切ですが、男性の家事・育児時間をもっと増やすことが重要だと思います。



特色

子育て・家事の「正解」ではなく、それぞれのパパがそれぞれの家族にあった子育て・家事・パートナーシップ・地域参加を見つけていくための考え方・ヒントとなるような内容になっています。

★ ご希望の方は、お問合せください。

『ちちしるべ』

(イクメン研究所発行)

「イクメン研究所」のなかで、市内在住の当事者であるパパたち自身が「研究員」メンバーとなって、男性の子育てや家事、地域参加のあり方を調べ、検討し、作成したものです。



編集・発行 すくらむ21「イクメン研究所」

このジャーナルは、イクメン研究所のメンバーが企画、執筆を行う手作りのフリーペーパーです。次回は、12月に第6号を発行予定です。お楽しみに！

[イクメン研究所] 検索



f <https://www.facebook.com/scrum21.ikimen>